

## ケンブリッジ会議 2007

### —世界の「国土地理院長」が一堂に会する—

国土地理院 企画部 国際交流室 藤原 智

#### ○ケンブリッジ会議とは

国家測量地図機関（National Survey and Mapping Organization、NMO）は先進国から開発途上国まで、各国に存在する。日本の国土地理院もこの一つである。この国家測量地図機関の長が集まる「世界国土地理院長会議」とでもいふべき会議が、英国陸地測量部（Ordnance Survey）が主催するケンブリッジ会議である。ケンブリッジ会議は、世界の国家測量地図機関の長らが一堂に会し、今後取り組むべき技術的・行政的課題について情報交換・討議するとともに、国家測量地図機関の間の国際交流・協力を促進することを目的とし4年ごとに開催されている。

この会議は1928年（昭和3年）ケンブリッジで国際地理学会が開催された折、当時の英国海外測量委員会が、英連邦の各植民地の測量分野のトップの間の技術交流を図るため、一堂に集め、会議を主催したのが発端であり、1931年にフォローアップ会合を開催し、以後4年に一度開催されている。1995年からは旧英国領以外の各国も招いて開催しており、実質的に各国の国土地理院長クラスが集まる世界で唯一の会議である。日本の国土地理院長も1995年以降毎回参加している。

#### ○ケンブリッジ会議 2007

2007年7月15日から20日まで、英国ケンブリッジにて「ケンブリッジ会議 2007」が開催され、時期を合わせて開催された第14回地球地図国際運営委員会（ISCGM）会議への参加を含め、国土地理院からは藤本院長（当時）をはじめとして4名が参加した。

会議は、約70ヶ国から約220名の参加があり、「縮小する世界における展望の拡大」をテーマに議論が行われ、「危機と災害」のセッションで国土地理院も発表した。

最終日には、データの収集と利用、国家測量地図機関の信頼と地位、技術の利用、ウェブを利用した知識の共有、地図の認知度の向上等について決議がなされ閉幕した。



全体写真

最前列の真中の女性が英国陸地測量部長の Vanessa Lawrence 氏である

## ○ケンブリッジ会議 2007 の決議の概要

### (1) データ収集と利用

- データを最適な品質で一度収集しておき、あらゆる状況において適切な形で再利用することがデータ管理・利用を適切に行うための必須の原則
- 国家測量地図機関は、自国における事業の実施やリーダーシップの発揮に際してこの原則を常に強化すべき

### (2) 国家測量地図機関の信頼と地位

- 世界中の国家測量地図機関は、地理空間情報の産業界において、最も信頼のおける情報の提供者として社会での特別な地位を占める
- 国家測量地図機関は、この認識のよりどころとなる信望と活動を進化させ続けることが不可欠

### (3) 技術の利活用

- 技術は、国家測量地図機関が役割を遂行する上で利用できる主要な手段のひとつ
- データや地理空間情報の成果物の収集、管理及び提供においても同様
- 国家測量地図機関が任務を遂行するにあたっては、継続的に技術を利活用することが重要

### (4) 知識の共有

- 国家測量地図機関は、共同体として継続的に知識を共有し、お互いに最良な実例から学ぶことが不可欠
- ウェブによる知識ポータルサイトの開設とその充実が、知識の共有と専門家の支援の鍵となる

### (5) 認知度の向上

- 国家測量地図機関は、政治家、意思決定者及び一般大衆に地図の重要性を認識させ

るよう率先して関与すべき

- 学校、第三者機関及び民間における認知度を高めるべき
- この取り組みには、各報道機関も巻き込むべき



国土地理院の発表



晩餐会